

抗 MOG 抗体測定法の変更に伴う、留意点や測定法の違いについて

近年、抗 MOG 抗体関連疾患(MOGAD)は視神経脊髄炎スペクトラム障害と独立した炎症性脱髄疾患と捉えられるようになりつつあります。

本邦において、抗 MOG 抗体の測定の際は、結合部の立体構造が保たれることにより感度・特異度が高いと考えられる、

「生きた細胞を用いた CBA 法(Live CBA 法)」を推奨します。

国内では、東北大学より株式会社コスミックコーポレーションに技術移管された Live CBA による抗 MOG 抗体測定法が、10 月 1 日より開始されました。

詳細はメーカーページ

<<https://www.cosmic-jpn.co.jp/topics/?p=1#1623122555-814971>> をご確認ください。

なお、患者さんの病態・治療状況によって検査の結果は変わる可能性があります。

臨床情報を元に、判断するようご留意願います。

2021 年 10 月 6 日
日本神経免疫学会
理事長 藤原 一男